

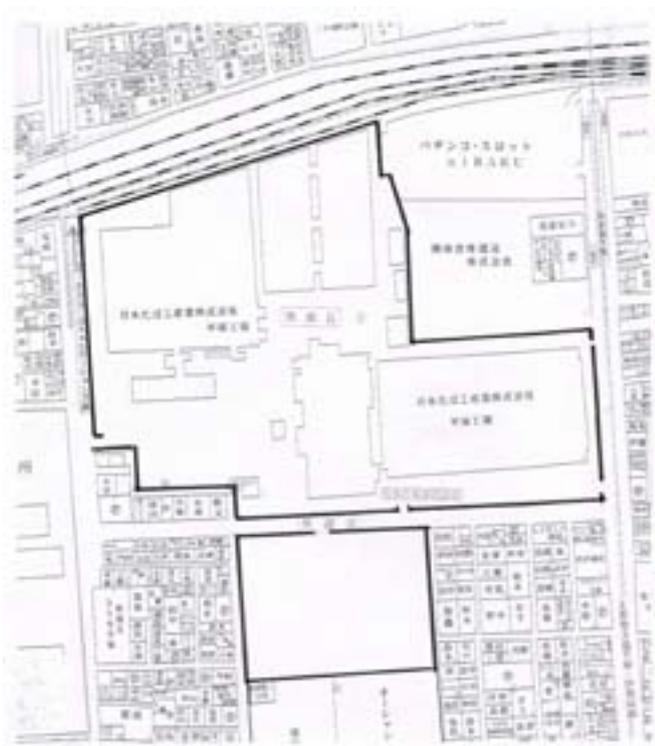
撤退した後

JT跡地はどうなるの？

自治会から声

黒部丘の日本たばこ産業（JT）平塚工場は二〇一六年三月をもって閉鎖になります。敷地面積は約九ヘクタール。三十ヘクタールの総合公園の三分の一の広さです。

三月、黒部丘東部自治会をはじめ地元選出の四人の市議員と自治会の懇談が行われました。



自治会からの要望は災害時に対応できる利用です。広い敷地は災害の際、避難場所とするだけでなく、仮設住宅などに利用できます。

また、敷地はふだんは子どもが安心して遊んだり、地域住民、市民がスポーツを楽しむことができ、多くの人に歓迎されます。

各地で進む跡地利用

JTの撤退は平塚だけでは



東海道線の南、平塚工科高校の東側

ありません。小田原では跡地をイオンが取得し、今年秋、大型スーパーとホームセンターが開業の予定です。金沢市はJTとの合意により都市計画を決定し、道路、商業施設、住宅地区に利用しています。

納得できない利用も

しかし、住民の意に沿わない利用もみられます。大阪府高槻市では跡地に医薬研究所の建設が計画されました。しかし、遺伝子組み換えレベルP3という安全性に心配のある施設であったため、住民から反対運動が

起きました。しかし、結局、住民の合意を得ないまま研究所が開設されました。

民営ではあっても

JTは民営になりましたが、日本たばこ産業株式会社法による特殊会社です。株式のうち三分の一以上を政府が所有し、次に大きな株主でも二・六一パーセントで、事実上、国が所有する企業です。

専売公社の時代、ここで夏祭りが行われ、体育館、グラウンドも住民が利用することができました。

平塚市民新聞

発行 日本共産党平塚市委員会
2015年4月号外
電話 0463-23-0714

「平塚市民新聞」は日本共産党の政策をお伝えしています。



フェンスが張られた空き地

カギとなるのは地域住民の声です。計画が先に決められると、それが既成事実として進められてしまいます。跡地は市民のためという立場から私たちの声を上げていくことが大切です。

住民の声がかぎ

現在、空き地はフェンスが張られ、立ち入り禁止になっています。災害の際、避難できない状態です。跡地利用の計画ができるまで市とJTで契約を結び、広場として市民に開放することはできないでしょうか。

まず開放しては

木がいっぱいの自然がいいな。春は花に囲まれて、秋は落ち葉を踏みしめて、赤ちゃんといっしょに歩きたい。

ぼくは運動がしたい。プールで泳いで、サッカーをするんだ。夏祭りで盆踊りをしてみたい。

ドッグランで犬と遊びたい。運営はボランティアの人がしてくれるの。

サークルで使える部屋や催し物のホールがあるといいな。産地直売のお店もうれしい。

住民の命をまもる
災害に強いまちづくり

高山和義

平塚市議会議員

日本共産党

高山和義 ブログ 検索



スマホからは